

所報



巻頭言

学校に元気と勇気を解発する 学校組織マネジメント

名城大学大学院学校づくり研究科 研究科長・教授 木岡一明



学校の周辺では、今、急激な社会変化が起きている。それにともなって、学校内部でも種々の問題が噴出し、危機的な局面を迎えている。この局面を乗り越えていくには、自校の内外環境を的確に把握し、自らの有り様を環境に適応させていくこと、そしてそのための効果的な技術を駆使することである。その技術が、組織マネジメントであり、教職員がそれによって危機感、問題状況、対策を共有し、事態に協働的に立ち向かっていく元気と勇気を引き出す（解発する）ことが必要なのである。そのためには、とりわけ次の六つの視点が重要である。

(1) ミッションを明確にする；学校は、果たすべき公の役割や責任がある。そうした役割や責任は、個々の学校の状況によって、具体的に、誰に、何を、いかにすることなのかは異なってくる。そこで、全国共通の学校という発想から当然視してきた事柄を、置かれた内外環境に照らして捉え直していくことが期待される。

(2) 達成感を引き出す；ともすると学校ではひたすら今以上の向上を目指して努力し続けるしかない目標（向上目標）を掲げがちである。それでは、いつまで経っても達成感が得られずにやがては疲れ果てていく。達成目標（できたかどうか分かる目標）をもとに取り組みの具体化や明確化を図っていくことが必要である。

(3) 重点化を図る；達成目標を定めるには、当然に、自校の耐力を診断して達成可能な取り組みを引き出してこなければならない。したがって、あれもこれもと取り組みを広げるのではなく、中長期的な見通しのもとで優先順序を決め、重点化を図ることが不可欠である。

(4) プラス思考を促す；マイナスに眼を向けると元気が萎えてくる。長所を足がかりにして、よさを活かす方向で取り組みを進めながら効力感を高めつつ、やがて蓄えられた元気や勇気をバネにマイナスにも立ち向かっていくという順序が意欲や努力を長続きさせる。さらに、弱みや脅威も、ただマイナスとだけ捉えるのではなく、プラスに転じる見方や考え方を探っていくことである。

(5) 外部資源に眼を向ける；この間の少子化の影響を被って、学校は小規模化したり職員構成に不均衡が生じたりして、内部資源には種々の限界や不十分さがみられる。他方、学校を取り巻く外部環境には、支援的な要因や機会が広がっている。そこで、学校の重点課題を効果的に達成するには、外部資源に眼を向け、それらを活用（学校内にとりこむ）していくことが有効となる。

(6) 巻き込みを展開する；一斉に一律に動き出そうとすると、人々の足並みを揃えるのが難しい。したがって、できるところから、できるときに、できる人が少しずつ動き始め、しだいに周囲の人々を巻き込んでいくのが有効である。そのためにも、チームを組み、試行錯誤を重ねて、今の状況に変化を生み出す工夫が必要となる。

こうした取り組みを通じて、学校に再び社会を先導する自負とそれを現実のものとする創造力が解発されることを期待したいし、その道程を共に歩んでいきたい。

●	○巻頭言P.1
●	○研修講座だより1P.2
●	○シリーズ～校内授業研究を進める1～P.3

○授業づくり支援センターの案内P.4
○土曜開館・土曜セミナーの紹介P.5
○教育センターひろばP.6

研修講座だより 1

6月までに実施した研修講座(一部)の概要を紹介します。

新規採用教員研修講座 「教員としての基礎・基本」

講座の概要

本講座では、本年度の新規採用教員(教諭、養護教諭、実習助手)141名が、「教員としての基礎・基本」について研修を進めます。

初任者研修の一環として年6日間開講しますが、1回目は「教育と教職」と題して尾形学校教育部長にご講話いただきました。凛とした雰囲気の中で、受講者はそのお話に聞き入っていました。

後半は、「目指す教師像と育成すべき力量」について研修しました。目指す教師像を、「こんな先生になりたいな」として表現し、全員で意見交流も行いました。

受講者はみな熱心に研修に取り組んでいました。



学校教育部長の講話では、講座のスタートに当たり、「新任教師に期待する」として、教育の究極の目的は「人格の完成を目指す」ことであることや、教育の営みにとって重要である五つの教師の立場(授業担当者としての教師、学級担任としての教師、学校組織の一員としての教師、専門職としての教師、公務員としての教師)について体験をもとにしたお話がありました。

これから教職を歩む者としての心構えが実感できる貴重なひとときでした。

「こんな先生になりたいな」より(一部)

- 子どもたちの目をキラキラと輝かせる先生
- 子どもに学びの感動を与える先生
- 子ども、保護者、同僚の先生方から信頼され、教師としてだけでなく、人として尊敬される心のあたたかい先生
- 子どもの気持ちにしっかりと寄り添える先生
- 子どもの気持ちを理解しようとして一生懸命努力する先生



教職経験3年次教員研修 「リフレクションを通じた授業・保健室経営の改善・充実」

講座の概要

本講座は、リフレクション(振り返り)を通して授業や保健室経営の改善・充実を図ろうとする研修です。

研修内容は、所属校での各自の主体的な「授業研究」や「保健室経営研究」を実施することです。この自己研修は、校長先生をはじめ様々な先生方からの助言や支援を受けながら進めていきます。

3年次の先生方を校内で支援することを通して、3年次の先生はもとより、みなさんも自己の授業や保健室経営を振り返る機会にしてみませんか。



授業を評価する(振り返る)とは

「授業を評価する(振り返る)」ことは、児童生徒の学習の状況を把握し、今後の授業改善に結び付けていくうえで大切なことです。そのため、授業を評価する(振り返る)際は、児童生徒の学習成果や学習活動について行うだけでなく、教師自身の指導についても行う必要があります。

日々の授業の中では、教師が思い描いていたとおりに進んだ授業であったとしても、児童生徒にとっては充実した授業になっていないこともあります。そこで、その授業を振り返り、授業における教師のどのような指導が児童生徒の学習にとって効果的だったのか、あるいはそうでなかったのか、また、それはなぜなのかという背景を明らかにしていくことが、その後の授業改善につながります。

(広島市教育センター『授業研究ハンドブック～第IV章《授業を評価する(振り返る)》～』2005年,24頁)

授業の要は教師の見取り

国語の授業で、一斉の音読が終わった後、教師が「〇〇さん、大きな声で読めるようになったね。」と声をかけました。〇〇さんは、数ヶ月前に日本にきたばかりで、ようやくひらがなを読めるようになったお子さんです。教師はその声を注意深く聞き分けていました。

体育の授業が終わった後、〇〇君が泣きました。跳び箱が最後まで跳べなかったからではありません。教師が「〇〇君は、まだ跳べてはいないが前よりも遠くに手がつけるようになっていた。」と言ったから泣いたのです。教師は遠くからその練習の様子をよく見ていました。

どちらも、子どもの状況を教師が鋭く見取ることによって生まれたエピソードです。

授業は、子ども・教材・教師の三者の関係によって成り立つものです。教師はよい授業をするために、教材研究を行い、子どもへどのように働きかけていくのかを、指導計画や指導案として具体化します。



子どもは教材とどのようにかかわるのかを具体的に想定したうえで指導を計画しなければ、教師は子どもに確かな働きかけを行うことはできません。また、それが子どもに有効に働くためには、授業での子どもの様子を見取り、その状況に応じて、一層の工夫をしたり、変えたりすることが必要です。授業の最中に、自らの働きかけが有効に働いているかどうかを子どもの姿から瞬時に見取ることが大切なのです。

教師は、こういった「計画－働きかけ－子どもの見取り－振り返り・見直し－新たな働きかけ」という一連の営みを、日頃から、実際の授業で行っているのです。その営みを日々繰り返しながら、子どもを見取る目を鍛え、働きかけの質を高めています。実際の授業の場では、教師が子どもをどう見取るかが授業の成否の鍵を握っていると言えます。

授業研究の要は協議会

システムとしての校内授業研究には、教師がどのよ

うな働きかけを行うかという計画段階に関する研究と、教師が実際にどのような働きかけを行ったのか、それによって子どもがどう力を伸ばしたのかという結果段階に関する研究の両方があります。前者には、年度当初の校内研究計画等の立案、研究授業前の指導案づくり等が含まれます。後者には、研究授業とその後の協議会が含まれます。

校内授業研究の目的は、両方の段階がよく繋がり、一人一人の教師が子どもを見取る目を鍛え、子どもへの働きかけの質を高めていくことです。すなわち、授業力の向上です。

そのためには、協議会で他の教師の見取りを聞きながら、自分の見取りを見つめ直すことが有効です。

同じ場面を見ても、個々の教師の見取りには違いがあります。授業者の見取りとも違っていることでしょう。互いにその場面の見取りを出し合い、その場面の子どもの様子について共に掘りさげていくことで、新たな気づきが生まれることもあります。それを協同的に行えるのが協議会です。

校内で授業研究を行うことの強みは、この協議会にあります。同じ職場にいる教師が、日頃の人間関係を基盤にして互いを見取りを共有し、深め合うことができるからです。

例えば、見取りが二人の教師の間で違っていた場合で考えてみましょう。(国語科の導入で、教師が腹話術を用いて課題となる会話文を演示する場面)

- A 「先生が腹話術を始める時、まだ集中していない子どもがいたのが気になった。もっと子どもたちを集中させてから、腹話術を始めればよかったと思う。」
- B 「確かに私も〇〇さんがおしゃべりしていたのは気になったけど、〇〇さんを見ていると、腹話術が始まるとしゃべるのをやめて先生に集中した。先生の腹話術で〇〇さんが集中したと思う。」

B先生が自分の見取りを語ることで、「腹話術」をどのタイミングで行うのがよいかという話し合いが生まれます。もしB先生が何も言わなかったら、それは生まれません。このように、協議会では、個々の教師が忌憚なく自分の見取りを語る事がとても大切なのです。

協議会の活性化を

しかし一方で、こんな状況もあるようです。「協議会で意見が出にくい。」「授業を見た感想を言うだけで終わっているような気がする。」

協議会を活性化する方法は色々あります。次号では、その一つである付箋紙法を紹介します。

先生方の自主研修を応援します！

授業づくり支援センターの案内

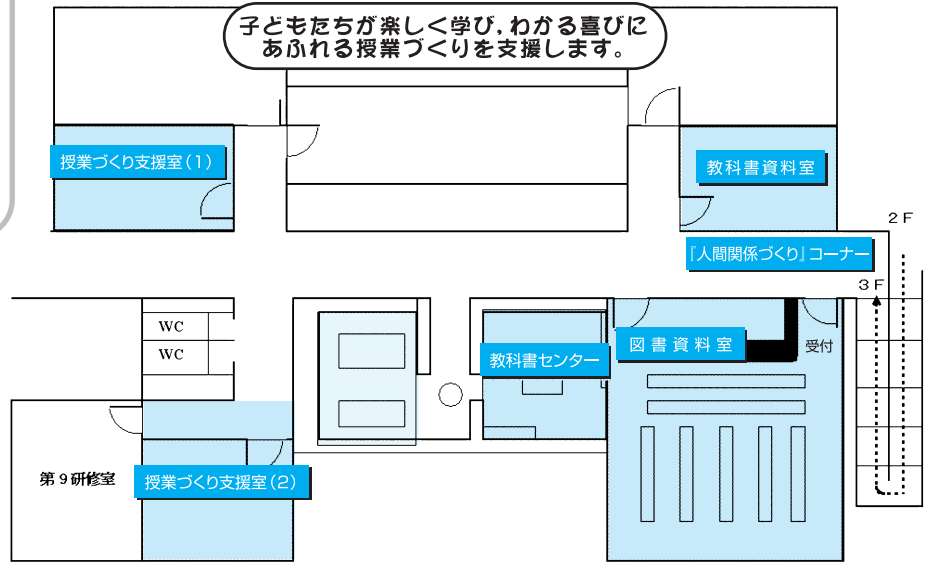
授業づくり支援センターでは、教材研究・教材作成・指導案作成のために必要な資料を揃えています。

資料は、貸し出しやコピーをすることができます。



▶3F▶

授業づくり支援センター



図書資料室



3万冊以上の教育関連書籍

貸出期間は2週間で、メール便で返却することもできます。

「人間関係づくり」コーナー



学級集団づくりピアサポート

人間関係づくりに関する書籍やビデオを揃えています。

授業づくり支援室1



新刊図書200点
通知表
学校要覧
研究紀要 等

平成19年度市立学校で作成された通知表が約50校分閲覧できます。研究開発校や教育センターの研究紀要も揃えています。



授業づくり支援室2

学習指導案1000点
シラバス
教育雑誌
バックナンバー



学習指導案作成時に参考となる資料を多数揃えています。今後、より一層の充実を図っていきます。是非ご活用ください。

先生方の自主研修を応援します！

土曜開館・土曜セミナー（試行）の紹介



「授業づくり支援センターを利用したいけど、平日はどうしてもセンターまで行くことができなくて・・・。」という先生方の声にお応えし、今年度、土曜開館・土曜セミナーを試行しています。セミナーは、土曜開館に合わせ、三つのテーマに沿って企画・実施しています。

開館日

7月26日 12月20日
8月23日 1月17日
9月20日 2月21日
10月18日 3月21日
11月15日

開館時間：9時から17時

土曜セミナーテーマ

- 第1期:「学習指導セミナー」(5/24・6/28・7/26)
教材研究と発問, 教材づくり等
- 第2期:「学級経営・生徒指導セミナー」(10/18・11/15・12/20)
学級経営と教室環境づくり, 人間関係づくり演習等
- 第3期:「組織マネジメントセミナー」(1/17・2/21)
ミッション探索, SWOT分析等

開催時間：9時から12時

土曜開館では、授業づくり支援センターを随時利用することができます。授業づくり等に関する相談も必要に応じて行います。（セミナーの申し込みや相談等のお問い合わせは、島本指導主事まで）

土曜セミナーが スタートしました！

5月24日「教材開発と発問の工夫」



セミナー開始

参加者全員でのアイスブレイキングの後、教材研究と発問について、指導主事がプレゼンテーションを行いました。

共同で教材研究

小学校第4学年算数科の単元「面積」の教材研究を学習指導要領解説・指導書・教科書を使って行いました。



全員で模擬授業

教材研究を基に、「面積」の1時間目の導入を想定して、それぞれ発問を工夫して授業を行いました。

最後に、展開や終末の発問についてまとめました。

参加された先生の声

- 他の先生方の発問の仕方や授業（学級）の雰囲気づくり、進め方を見ることができたことは参考になりました。
- 頭で分かっても言葉にすると難しい・・・。言葉（発問）のもつ大切さ、難しさに改めて気付かされた時間でした。
- 子どもの立場になって考え、発問の仕方や、タイミングなどに気を付けてこれからの授業でいかしていききたいと思います。
- 過ごし方が難しい土曜日の朝から刺激をもらえました。帰って勉強しようかなという気持ちになりました。



教育センターひろば

●職員・分掌

事業等	職名	職員	主な担当業務
	所長	松田 了二	所務総括
	次長	尾形 慎治	所務管理執行
管理部	庶務	木全 昭夫	管理部総括
	主幹(事)主任	的場いく子	文書、物品管理、研修事務補助等
	主査	栗栖美保子	予算・決算、文書、経理、物品管理等
	主事	瀬戸 靖成	施設・設備管理、予算・決算等
研修1部	主任指導主事(事)主任	藤村 和彦	研修1部総括
	指導主事	島本 圭子	経験者研修、管理職研修、少人数教育等
	指導主事	土井 延久	初任者研修、若手教員研修等
	指導主事	正原 直行	10年経験者研修、管理職研修等
	指導主事	堂鼻 康晴	主任主事研修、ひろしま型カリキュラム、指導改善研修等
	指導主事	山領 勲	特別支援教育研修、指導改善研修等
	研修指導員	井東 弘	主任・主事研修、指導改善研修等
	研修指導員	今田 善行	主任・主事研修、指導改善研修等
	研修指導員	松村 繁	主任・主事研修、指導改善研修等
	研修2部	主任指導主事(事)主任	住吉 磨
主任指導主事		大下 恵子	教科等別研修、指導主事研究等
指導主事		清水 剛	職務別研修、教員長期研修等
指導主事		岩田 浩一	課題別研修、コンピュータ研修等
指導主事		胤森 裕暢	課題別研修、指定都市共同研究等
指導主事		高田 尚志	課題別研修、コンピュータ研修等
研修指導員		松井貴美子	一般研修、職務別研修等
研修指導員		弘法 泰英	一般研修、職務別研修等
図書資料分類整理員		大下千賀子	図書資料室管理関係事務
臨時職員		物部 旬子	研修講座運営補助、授業づくり支援センター整備

●職員の異動

☐ 離 任 ～在職中はお世話になりました～			
濱田 昭法	研修指導員	退職	
▶ 就 任 ～どうぞよろしくお願ひします～			
弘法 泰英	研修指導員	戸坂小学校から	



●研究員

今年度(前期)は次の9名の先生方が、「学校運営を支えるための資質能力の向上」、「教職員としての意識及び社会性の向上」に加え、「授業研究(校内研修)・生徒指導の推進に係る指導力の向上」を目指した研修に取り組みました。

(平成20年4月～平成20年6月)

研修内容:「授業研究(校内研修)の推進に係る指導力の向上」

若林 聖 (山本幼稚園) 平坂 兆広 (江波中学校)
 吉岡奈緒美 (牛田新町小学校) 長屋 吉輝 (五日市南中学校)
 岡田 智子 (三入小学校) 白井 教人 (広島商業高等学校)
 山口日出登 (五日市観音西小学校)

研修内容:「生徒指導の推進に係る指導力の向上」

熊谷謙次郎 (尾長小学校) 西山 晴美 (美鈴が丘中学校)

編集後記

本年度も、先生方の実践・研究に役立つ情報を「所報」で発信できるように努めてまいります。

土曜開館、土曜セミナーの試行等、新しい取り組みもスタートしました。先生方の自主研修の場としても、教育センターを是非ご利用ください。

編集・発行／広島市教育センター

〒732-0068 広島市東区牛田新町一丁目17番1号
 TEL (082) 223-3563 FAX (082) 223-3580
 E-mail:

center@edu.city.hiroshima.jp

外部Webページ:

<http://www.center.edu.city.hiroshima.jp/>

内部Webページ:

<http://192.168.9.12/>